

尊光寺報

第123号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座 ⑱

(赤い経本九巻)

如来所以興出世

唯説弥陀本願海

五濁惡時群生海

応信如来如実言

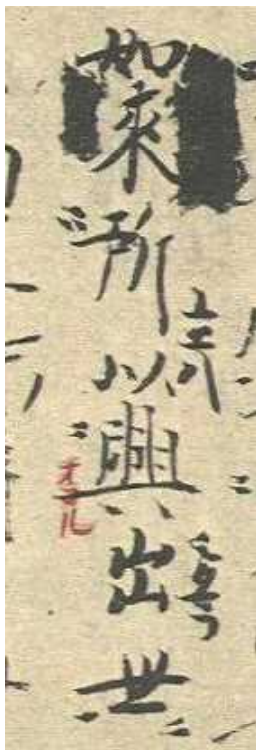
「お釈迦さまは阿弥陀さまの救いを伝えるために」

これまでの部分「法蔵菩薩因位時」(四巻)、「必至滅度願成就」(八巻)は、阿弥陀さまのお救いを中心とした。おさらいますとそれは、阿弥陀さまの光と名号(南無阿弥陀仏)によつて、私たちに信心(疑う心なくそのまま喜ぶ心)がめぐまれ、必ず救い取られていくことが語られていました。

今回の「如来所以興出世」(九巻)から「難中之難無過斯」(一四巻)までは、お釈迦さまが阿弥陀さまのお救いを私たちに勧めているという部分です。

それでは「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」から読んでまいりましょう。書き下しますと「如来、世に興出したもうゆえは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり」となります。まず「如来」とあります。如来とは「仏」「ブツダ」の別の言い方です。真実のさとり世界(如)から来た者という意味を強調した表現です。ですから、さとりを開いた方を指す普通名詞です。親鸞聖人は草稿本の「正信偈」のこの部分の右傍らに「釈迦」と書き添えられ、それを墨で塗りつぶしています。また別の書物の「如来所以興出世」を説明する部分で「如来と申すは諸仏と申す」と示されています。このようなお示しによりますと「如来所以興出世」とは、「さまざまな仏さまがこの世に出られた理由は」と、「如来」をお釈迦さまおひとりにかぎることなく現代語訳するのが妥当でしょう。

←親鸞聖人自筆の草稿本(板東本)「正信偈」の一部分



ただ、我々からしますと、この世に実際に現れてくださった仏さま(如来さま)はお釈迦さまだけですし、私た

ちはお釈迦さまの言葉であるお経を通してでしか、仏教を知ることができません。ですから、この「如来」とは私たちにいつては「お釈迦さま」と受け取るのが良いように思います。

さて、お釈迦さまの登場です。お釈迦さまは歴史上の人物で、その存在を誰も認めることができませんが、阿弥陀さまは歴史上の人物ではなく、お釈迦さまの語られたお経の中に出てくる仏さまです。そのお二人の関係性とはどのようなものでしょうか。時々受ける質問の中に、「お釈迦さまと阿弥陀さまはどっちが偉い?」といったものがあります。どちらもさとりを開かれた仏さまですし、おさとりのものに優劣があるわけではありません。ですから、どちらが偉いということはなく、どちらも偉いとお答えするしかありません。お釈迦さまは、さとりの境地に入られ、私たちが直接見ることの出来ない、知ることのできないさとりの世界を示してくださったのです。それがお経です。そういう意味では、お経は私たちの知らない世界を教えくれるガイドブックと言えますね。そのお経、特に「無量寿経」というお経で我々に勧めて紹介してくださったのが阿弥陀さまという仏さまです。それも阿弥陀さまの境地になって阿弥陀さまのお救いをそのまま余すことなく私たちに伝えてくださったのです。お釈迦さまは阿弥陀さまと一体になってお説法されたとも受け取れるでしょう。そのお釈迦さまが、私たちに阿弥陀さまの世界へゆけよ、念仏の教えを歩めよ勧めてくださっている。お二人の仏さまの関係については、他にもさまざま表現で説明がなされますが、今回は、紹介者としてのお釈迦さまと、紹介された阿弥陀さま、この程度の説明にとどめておきましょう。

つづく

インド 仏教美術の至宝を訪ねる旅④

エローラの石窟寺院群を後にして車に揺られること一時間ほどだろうか、本日からの宿に到着した。そこそ良いホテルのようだ。今までは佇まいが明らかに違う。今回の旅ではホテルが徐々にランクアップしているのが嬉しい。初めのお湯もろくに出来ないホテルが今や懐かしい。このホテルには広い芝生敷の中心庭があるのだが、何やら作業員が多く集まっている。何事かと思つて様子うかがつてみると、照明を立てる人、大きなスピーカーを運び込む人、椅子や机をセッティングする人、様々な料理テーブルを組み上げる人。コンサートやディナーショーが開催されそうな会場設営であるが、どうやら結婚披露宴の準備だ。噂には聞いていたがイン



↑会場準備中のホテル中庭

法要・行事のご案内

◎ 宗祖親鸞聖人 報恩講法要

【12月22日】午後1時 日中法要

午後6時 大逮夜法要・御伝鈔拝読

【12月23日】午前10時 総永代経法要 お昼御齋(食事)

昼12時半 報恩講御満座・御伝鈔拝読

午後3時 和楽器コンサート

〔法話 本願寺派布教使 岡部正顕 師〕

宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、念仏に出逢えたことを悦ばせて頂く、一年で一番大切な法要です。お誘い合わせの上、参拝下さい。なお23日は参拝の皆様(御齋(昼食))を準備しております。※本年度の執行当番は柿原組(北二条南二条・小笠野田原)です。よろしく願ひ致します。

◎ 除夜の鐘

【12月31日】午後11時40分頃より

鐘の音とお念仏で、心新たに年を迎えましょう。

どなた様も鐘をつくことができます。

◎ 春の彼岸会永代経法要

【3月21・22日】両日とも午後1時より

※3月22日は仏教婦人会総会も兼ねます。

太陽が真西に沈むお彼岸の期間。西方に懐かしい人の往かれたお浄土を思い、私も同じお浄土へ必ず参るぞと、仏法に会わせていただきましょう。〔法話 本願寺派布教使 四夷法顕 師〕

■ 本願寺・大谷本願寺 参拝旅行(団参) 募集

来年(2019)の日程は、

【一泊二日】 6月24日(月)・25日(火) 費用3万5千円

大谷本願法要・納骨、本願寺参拝の後、

福井県あわら温泉・永平寺・吉崎を予定

【日帰り】 6月24日(月) 費用1万5千円

大谷本願法要・納骨、本願寺参拝の後、

退蔵院or無鄰菴or天授庵を予定

※年に一度の団体参拝です。どうぞお仲間お誘い合わせの上、ご参加ください。詳しくは次の寺報3月号でお知らせします。



↑夜更けまで続く 中庭での披露宴

ドの披露宴はド派手なようだ。日が暮れた頃、設営された会場には照明が灯り、大音量の音楽が流れ始める。招待客が待つてましたとばかり多く駆けつけるがまだ新郎新婦の姿は見えない。主役のいないカラオケ大会が始ったようである。一時間以上経った頃、ようやく鼓笛隊らしきものに先導され新郎が到着した。しばらく後に新婦も登場。ドンチャン騒ぎは一気に最高潮に。一晚中騒ぐのがインド流らしい。新郎新婦に一切関係のない我々は速やかに安らかな眠りに入りたいのだが、インド流はそれを許さない。騒がしくうるさく、とても寝られたものではない。深夜二時を過ぎた頃だろうか、ようやく中庭は落ち着きを取り戻し、寝ることを許された。翌朝、話を聞くと、インドの結婚式にしてはまだ控えめな方だよと教えてくれた。さらに結婚式事情をうかがうと、驚くべき答えが返ってきた。結婚式・披露宴の費用はナント、新婦側が全額負担。その上、参列者からの祝儀は期待できないのだとか。よって娘が結婚するとき、父親は破産を覚悟で準備に入るのだとか。なぜ娘を送り出す立場の新婦側が費用負担なのか…。日本では考えられない習慣である。裕福になればなるほど披露宴にかける金額は大きくなる。大富豪でも娘が何人もいればお金がなくなるね、と笑顔で教えてくれた。そのガイドさんも数年前に娘さんの結婚式を無事に乗り越えたようだ。その笑顔にはどのような心境が隠れているのか、もう少し深入ってみたものであった。

寝不足気味の朝を迎えたこの日、アジャンター石窟へと向かった。アジャンターもエローラと同じくデカン高原北西部に築かれた石窟寺院である。先のエローラからは北東の地。宿泊地であるオーランガーバードの町からも北東へ100キロ、約三時間の車移動であった。



↑アジャンター全景

平らな土地が川に削られ台地に切れ目が現れる。その断崖に刻まれているのがアジャンター石窟群である。遙か昔、仏教寺院として掘られ栄えたここは実に千年以上もの間、放置され忘れ去られていた。1860年、トラ狩りに訪れたイギリス軍人によつて偶然、密林の中から発見されたのである。このアジャンター石窟を有名にしているのは、その仏教壁画である。高温多湿のインド中部にしてその保存状態は奇跡といえよう。画かれている壁画は、日本の法隆寺の壁画に類似のものがあり、シルクロードを通じて広く中央アジア・中国・日本の仏教壁画に、その影響を与えたことが知られている。



アジャンター石窟は観光地として駐車場も整備されているが、我らはあえて厳しい道を選んだ。対岸の丘から一時間をかけて山道を下つて川を渡り石窟寺院に近づくのだ。途中さすがにトラに遭遇することはないだろうが、ヤギやらサルがこつちをのぞき込む。このルートではアジャンターの全景を拝することが出来る。近づくにつれ石窟寺院の規模の大きさが顕れる。



のに対し、後期窟では仏像がはつきりと現れ、施主となった王侯貴族によつて内部は絢爛豪華に彫刻や彩色がなされ、様々な壁画も画かれるに至った。壁画は、お釈迦さまの生涯や前世物語、仏教を護る神々など様々であり、これらは修行僧の瞑想を大いに助けたであろう。アジャンターは五世紀の頃にそのピークを迎えるが、支えとなった王朝が崩壊すると同時に急速に衰退。寺院群は放棄され、いつしかジャングルにのみ込まれ、発見されるのを待っていたのであった。

つづく

「ご本山本願寺、阿弥陀堂ほか修復作業中」

本願寺阿弥陀堂は12月18日より2023年3月まで、堂内の修理に入る。これにともない、阿弥陀堂にご安置している本尊阿弥陀如来を南側の御影堂にお移しする法要が行われ、御影堂はしばらく阿弥陀如来中心の配置となる。他にも、唐門(2023年3月まで)、飛雲閣(2020年3月まで)と、本山では現在多くの建物の修復が行われている。参拝の際はご注意ください。

副住職担当、NHK文化センター

徳島教室のご案内

各講座、受講生募集中
問い合わせは、
徳島駅前NHK文化センター
(電話 086-611-6881)

●親鸞聖人と「歎異抄」

1月14日、2月11日、3月11日
「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら、親鸞聖人の生涯とその教えを味わいます。

●仏教講座「御文章」を読む

1月11日、2月8日、3月8日
「朝には紅顔ありて夕には白骨となれる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教の基礎知識とそこに書かれた仏さまの心に触れてみませんか。

※両講座は4月より【徳島新聞カルチャー】へ移転します。
徳島新聞カルチャーでの詳細は決まり次第お知らせします。



平成31年 年忌表

1周忌	平成30年
3回忌	平成29年
7回忌	平成25年
13回忌	平成19年
17回忌	平成15年
25回忌	平成7年
33回忌	昭和62年
50回忌	昭和45年
61回忌	昭和34年
100回忌	大正9年
150回忌	明治3年
200回忌	文政3年
250回忌	明和7年
300回忌	享保5年
過去帳・お位牌をお調べください	